胃全摘後のドレーン排液 AMY が唾液型 AMY 優位の異常高値であった一症例

◎大場 優子[1)]、小関 睦[1)]、丸川 明穂[1)]、嶋津 貴子[1)]、岡崎 朱李[1)]、安部 美奈子[1)]
公立置賜総合病院[1)]

【はじめに】消化管術後のドレーン排液における AMY(以下 D-AMY)の測定は術後合併症の有無やそのモニタリングの為に実施されることが多く,異常高値を示すことも少なくない.今回我々は術後縫合不全により縦隔内 D-AMY が唾液型優位の異常高値であった症例を経験したので報告する.

【症例】69 歳・女性.コーヒー様嘔吐,黒色便を認め消化管出血疑いで当院紹介受診.上部内視鏡検査にて食道胃噴門部癌と診断され胃全摘手術を施行.吻合時に食道損傷あり,損傷部を縫合して終了となった.

【経過】術後 2 日のドレーン排液では膵液瘻が疑われたが,翌日の縦隔内 D-AMY の結果から縫合不全が疑われ,造影 CT を施行.吻合部周囲に freeair が認められ縫合不全と診断された.その後の食道造影で造影剤の漏れが確認され保存的治療が行われた.術後 31 日の造影 CT で freeair は消退しており,食道造影で造影剤の漏出がないことが確認され術後 59 日で退院となった.

【ドレーン排液検査所見】術後 2 日の縦隔内 D-AMY は 29473U/L と高値であったが,術後 3 日では 152700U/L と著明に上昇していた.それに対し P-AMY が 3300U/L であったため,縫合不全による唾液の混入が疑われた.アイソザイム測定の結果,膵由来 12.0%,唾液由来 88.0%であり,唾液型 AMY が優位であることが確認された.また,ドレーン排液の培養では数種類の口腔内常在菌が分離され,このことからも唾液の混入が示唆された.

【まとめ】今回我々は縫合不全により縦隔内 D-AMY が唾液型 AMY 優位の異常高値であった症例を経験した.本症例は術中経過や D-AMY の結果から縫合不全による唾液型 AMY 優位の高値が予見できたが,膵液瘻などでも本症例と同等の高値を示す場合があるため注意を要すると思われた.一方,文献では唾液の混入を示唆するほどの異常高値でない場合においても縫合不全と診断された症例も報告されている.以上の事より,術中経過やドレーンの挿入部位,患者の所見を考慮し，必要に応じて P-AMY 測定やアイソザイム測定を行うことが重要であると思われた.

連絡先 0238-46-5000(内線 3117)